

防災に関心を

宮城県岩沼市立岩沼中学校

二年

柿崎 かきざき

悠介 ゆうすけ

一雨が強くなるときたから、そろそろ避難

しようか

と言って移動するのは、人ではなく車です。

私の家では、台風などで雨が強くなると、

このような話が必ず始まります。そして、家

の隣にある少し高台の公園へと車を移動させ

るので、それは、一緒に住んでいる祖母が

私が産まれるよりずっと昔に、家の前が冠水

し、車が水につかてしまった経験があるか

らなので、私はその話をいつも聞いていた

ので、車を移動させることに違和感を覚える

ことはありません。大雨は、様々な災害を引

き起こす、いわば引き金のようなものです。

私は七年前の二〇一八年に広島県で起きた

土砂災害が忘れられません。土石流が発生し

た結果、死者は二百名以上、近くの家は流さ

れるなど、甚大な被害が生じました。この二

入を見たとき、私は、

「大雨はこんなにも大きな被害を引き起こすのか」

と驚き、言葉を失いました。そして、私に二つの疑問が生まれます。一つは、「前日から雨が降っていて避難はいつでもできたけれど、どうして避難せず死者は増えたのか」で、もう一つは、「もしかして自分も知らないだけで、自分の周りにも危ないところがあるのではないか」です。

そこで、私の住んでいる岩沼市のハザードマップを確認してみました。すると、いつも利用している道や施設が、実は危険なエリアに入っていることに気づかされたのです。私の住む住宅地のそれほど遠くないところも土砂災害の特別警戒区域になっていて、ことを知り

りました。つまり、知らず知らずの間に、危険は近づくに潜んでいたといふことです。にもかかわらず、このことは友人の間で話題になりません。今回知ったこのことを周りの人に伝え、災害

対策を強めていきたいです。

せうがくなので、この機会にと、自分の家の回りはどうかと更に調べてみることにしました。家の回りを気をつけながら散歩してみました。いつもは大して気にならない川や山が、普段と違う目線だから、よく見えるようになった。なりました。もし大雨が降ったらか、もしも土砂が流れてきたら、なびと考えると、様々な場所が牙を向きかねないことを知ったのです。日々過ぎているからこそ、気づけ

ない危険さもあるのだと考えます。また、避難所など、もし逃げるときはどこを通って行くのが、家の外にいる場合はどうすればよいのかなど、あらかじめ確認することは大切なことだと考えます。いざというときに困惑してしまつては、助かる命も助からなくなるかもしねません。自分の住んでいる場所には何が、あるのか、どういう危険があるのかを知るだけでも全然違うと思います。

そして、知ることも確かですが、

ただ知るだけでなく、実際に行動してみることも大切ではなにかと考えます。

私の弟は、この春に小学校に入学しました。小学校に入ると、徒歩で通学しないといけないため、一度弟と通学路を歩いてみたことがあります。通学する学校まで私はいつも十分から十五分ほどかけて歩くのですが、弟は歩くとして四十分ほどもかかりました。私と弟では歩幅が違うこともあると思います。やはり歩き慣れていないことは大きいことだ、たの

かなと考えしています。

歩き慣れているか、そうでないかは大きく異なります。歩き慣れていれば、スムーズに行けますが、そうでないかと迷いながら進むと、大きく時間がかかってしまいます。

避難所まで、実際に雨の日や夜に歩いてみると、想像と違うこともあると思います。日頃から練習がてら歩いてみるのも必要かもしれません。

このように、身の回りには危険が潜んでいる

ます。その危険から命を守る最大の近道は、
 知ろうとするること、そして行動することだと
 考えます。だから、今度大雨なびで車を移動
 させることがあれば、家族に「私たちも早め
 に避難しよう」と声をかけたいと思います。
 「前も大丈夫だったから今回も大丈夫」とこ
 こまで来ないはず」といって油断が多くあ
 りたが、広島県の土砂災害では多数の死亡者が出
 てしまっただけだと思います。自分だけになく、
 他の家の人にも声をかけて、すぐに避難する
 ことが大切だと思います。「避難」というの
 は、命を守るための大切な行動です。少しむ
 ずかしいと感じたら避難する、「逃げ時」を
 逃さないことも大切なことだと理解していま
 す。
 自然災害の発生を防ぐことはできません。
 だからこそ、一人一人が防災について関心を
 持ち、防災について知ろうとする気持ちを持
 つことが重要だと考えます。私はそれを大
 切にして生きていきたいこうと思えます。